



婦女鑑

三

五
田
一
七

9
4075
2



門口9
號4075
卷 2

婦女鑑卷三 白糸來

目錄

鈴木宇右衛門妻

雋不疑母

厚瓦徳の妻

拔婁

貧老嫗

擔水夫惹克面の妻

利禰

維匡夫人



婦
鑑
卷之三
目錄
〇一
宮内省藏

馬理夫人

以撒伯拉額拉罕

安那

少女馬利

撒拉馬丁

維爾孫夫人

特多里蒙

瑣妮

聚侃

以利沙伯弗來

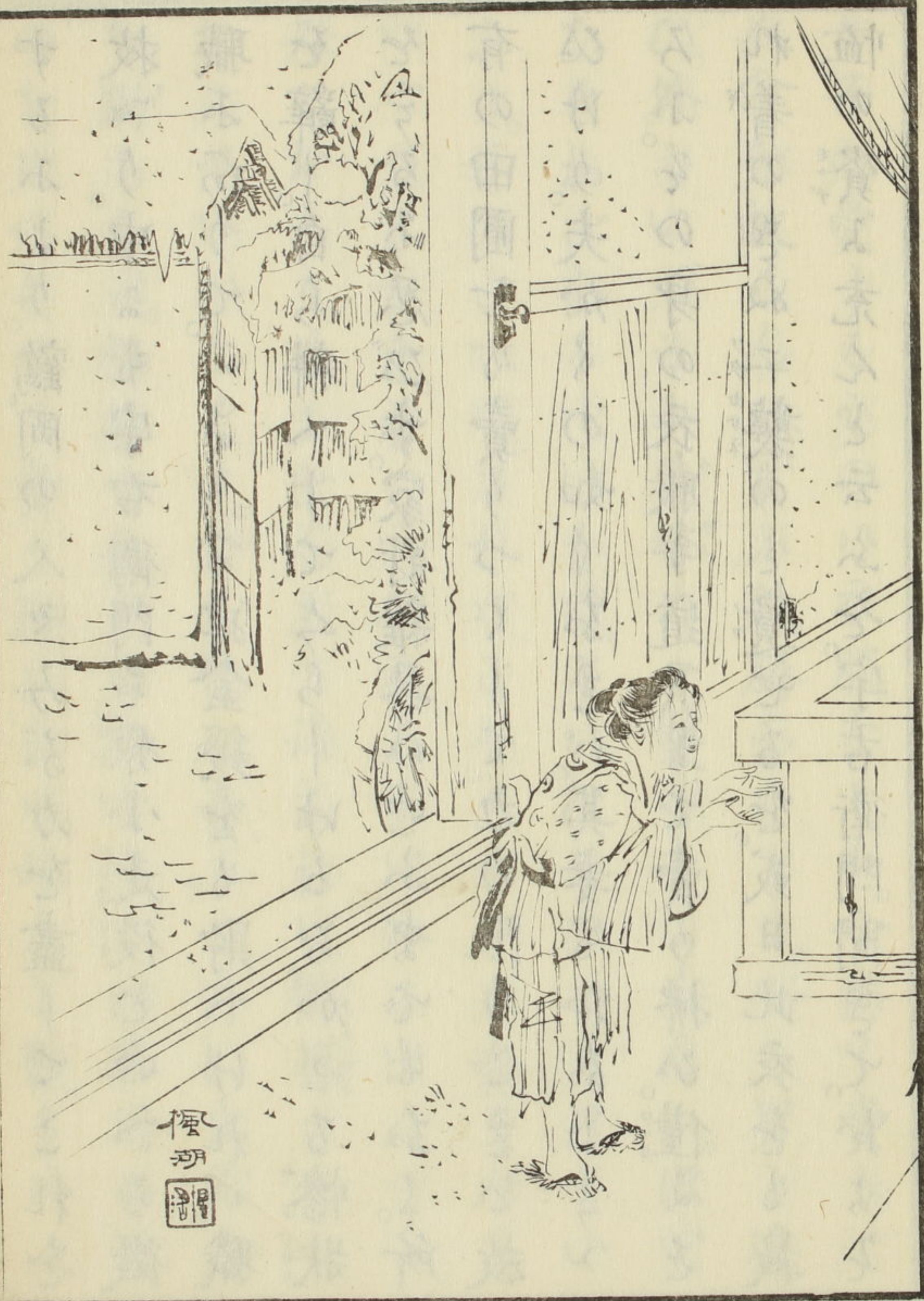
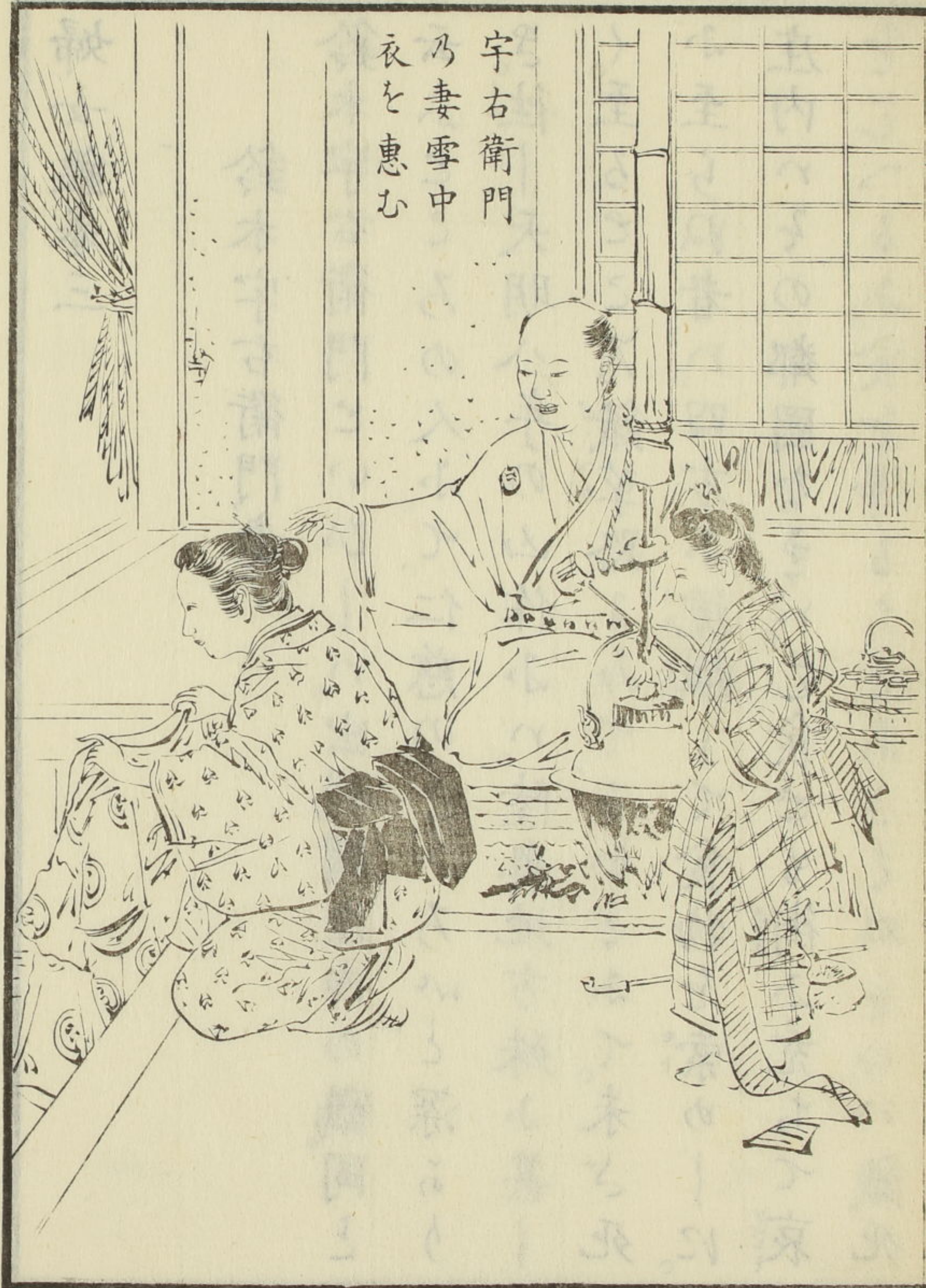
額黎坦林

婦女鑑卷三

鈴木宇右衛門妻

鈴木宇右衛門といひ一い。出羽國庄内の鶴岡と云ふところの人小て。仁慈のくくろみと深ありき。往イニ一天明八年の凶作小い。陸奥地方殊小甚く。至るところ餓ガ草路ハよみてるやど小て。未ど死小至らぬ者い。四方小流離リして食物を索モトめ一に。庄内いその鄰國なまむい。乞食ども街小充ちて哀アハレを乞へる小。食を得るおとあさもぬこのい餓死

宇右衛門
乃妻雪中
衣を恵む



権五郎

婦女鏡 卷之三 〇二 宮内省藏

するふより。鶴岡の人々みお力を盡してこれを
 救へり。中ふも宇右衛門を。原小走役といへる微
 職ありて。いさゝか此金錢をも貯へければ。職
 を辭し。自ら耕へてくらゝけるふ。かゝる慘狀
 を見るふ忍びず。家財雜具いふまでもなく。所
 有の田圃をも賣りつくして。力の限りこを救
 ひけり。夫かくの如くおまは。其妻もおあトこゝ
 ろふ。その身の衣服手道具まで賣り拂ひ。僅わずかま
 れ着ぎのきぬ二襲フタカサネの遺つせるを。或日此衣をも救
 恤モトメの資モチも充んと云ふを。宇右衛門聞きて。およそ

女子の愛するもの衣服なるを。今悉く賣りて
 人命を救へん。實小殊勝おまども。女を男と違
 ひ。外小いづる小着替キガの一襲ヒもならん。ほい
 おまわさかるべけまは。そなたもひやと祿とい
 ふ。妻おとへて。さればこそおまをも賣らんと
 心づきたま。着るへの衣あまは。外小出んこと
 ろもおあり。外も出んお。話あれは。櫛簪ウシカサネも存し
 たるでいかなま。今着替を賣りて外に出ん念
 を斷ちお。櫛簪も無用の物なり。これ無用のも
 のをも何れも賣り拂ひお。此上も數多の人

をも救ひ得らるべし。とて竟ツ小のこまおくりりて飢人小施せり。かくて阿くる春の始はる小至り。或日雪深くふり積り。山風ふきすさびて寒さ堪へふたき小。十一二歳むかひ此少女。飢ウ急疲て門小立ち食を乞へり。肌小を海松のおとくやぶきたるひとへの衣をまとひたをば。戦ヒひつゝえて目もあてらまねば。妻をみる小たへず。今年十二歳なる娘を呼び。そふい綿入の衣を二ツ重ねて暖ある小着たるを。阿の子のさおを見よ。いと不便ならずや。年もそないと同ト不なれれば。

衣のゆき長もほどよかるべし。毛もや暖なる時節小向へむ。阿あまり寒さらずい。その衣ひと川を脱スぎて。あの子小あいよいといへむ。娘もあころよく諾ウひて。上小着たるよい衣を脱スぎてあたくへいるば。夫婦とも涙を流して喜びいとぞ。

雋不疑母

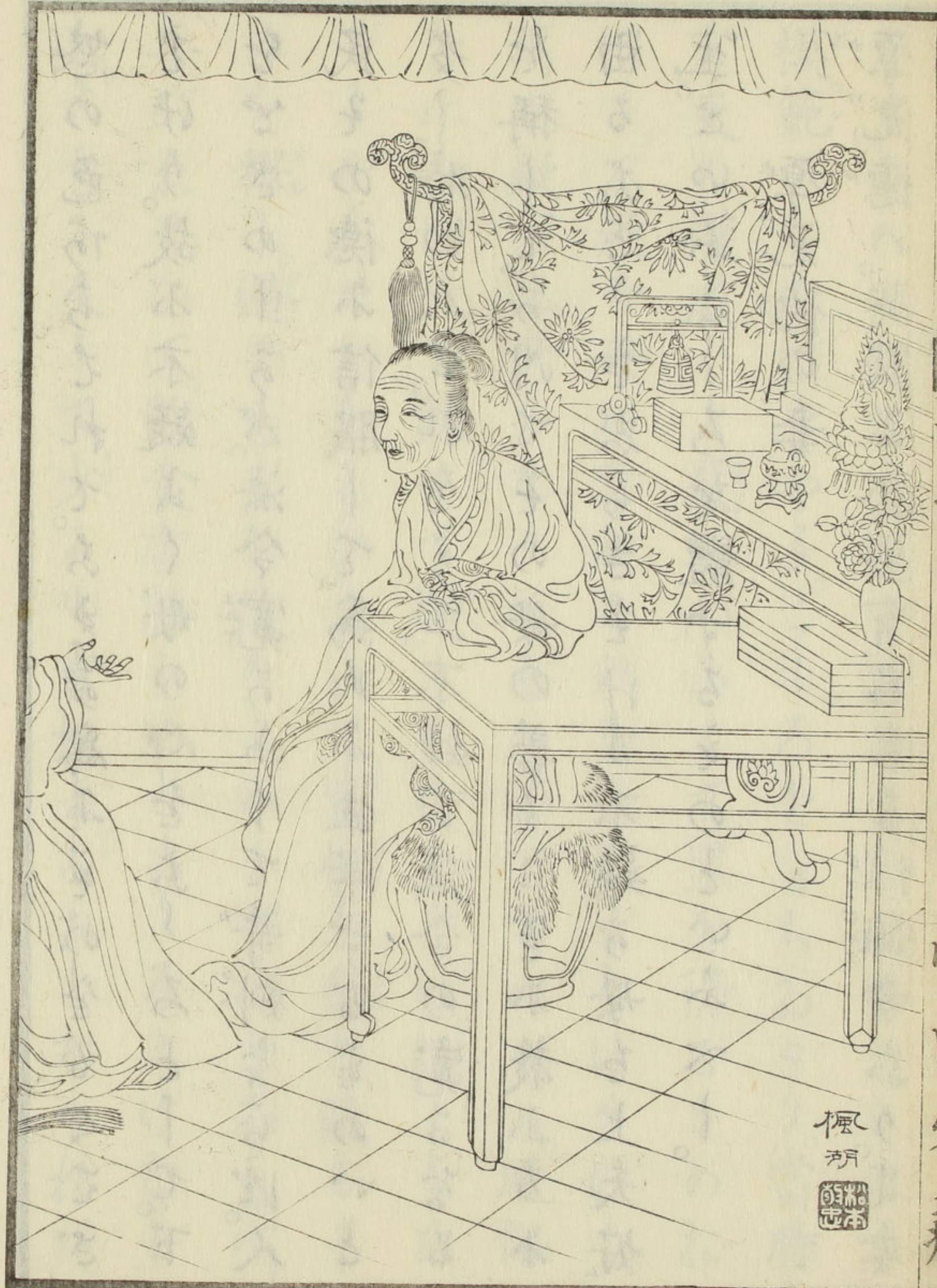
漢の京兆尹小雋不疑レといふ者あり。それの母いと仁慈のおいろあつく。法いくみふのくいて。よくその子を教へさいけり。されば食事のひまなど。かりをめのおいりも無用の事をい

せず。まづ起居進退言語までをさかきその
 模範となるべきやう。くろをもちわたり。當時
 官吏の權威いと嚴をかふして。罪を得るをのた
 ぼし。不疑の母ハ常よこれをいたとなげきけり。
 雋不疑京兆尹となりて。その管下をめぐり。風俗
 を正し。囚徒を録して還りし時などを親しくあ
 ざしやうごをといひまゝて。冤枉を發き。疑を
 きを釋し。過まざるを改めしめし事などあまは。
 喜び忍まひて。飲食言語といとあくるよげなる
 を。あまふ反して少るも宥恕するおとなりれば。

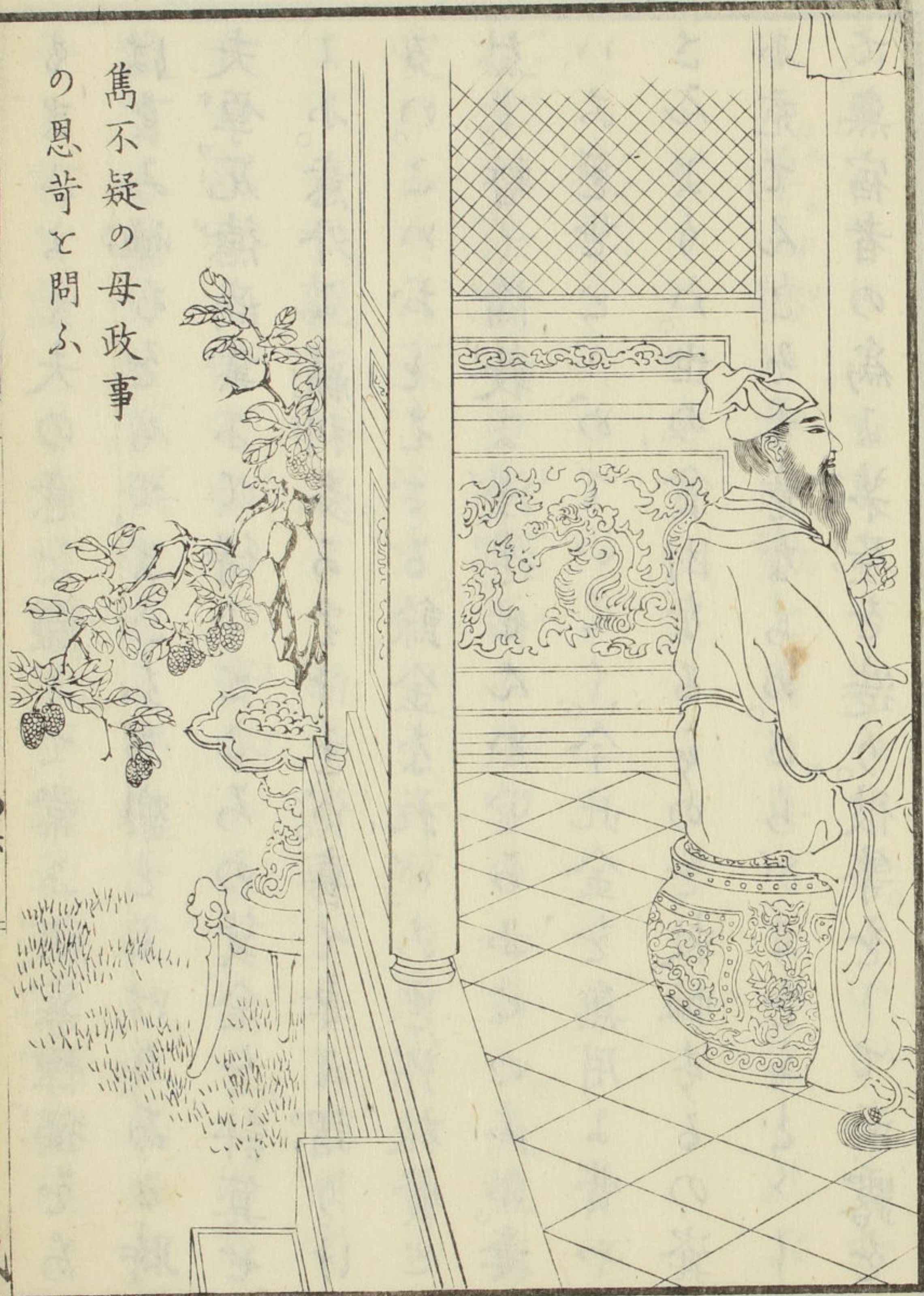
怒の色あらされて。あまふ為ふそのをもくまざ
 りけり。故ふ不疑よく母の心をあくるとして。下
 をとさめしあべ。法令寛ふして苛刺あらば。人
 民その徳ハ信服して。為めふ生活するといと
 多し。時の人これをきて。不疑の法令の寛なる
 を稱して。その母の善くこまふ教ふるお
 由るおとくをあらざりけり。不疑の母を上天好
 生といふくろを體するといふべし。

厚瓦徳の妻

厚瓦徳ハ英國よ於て有名なる仁恤者なり。其妻



楓所
印



萬不疑の母政事
の恩苛と問ふ

〇六

もまよよく夫の意を體して。常小鰥寡惻獨をあらはきみ恤むをもて。まよあき樂と一けり。ある時夫厚瓦徳商業小て得一ところの貨金を計算せし小。意外小贏利多ありけまば。喜て妻と謂りける。このおとをざる餘金なれば。おと旅費となし。暫く倫敦小漫遊せんといふ小。妻いふをどどめていさく。今此金を無用小費やさんよりい。世の貧困なるそのを救恤するの資小充てんこそ本意ならめ。さらばこそとて。無宿者の爲小茅屋を造り。彼等をして雨露を

志のふしめんをまよよからどや。といひすすむる小。厚瓦徳の妻の勸を用ぬ。喜てそのこと此おとくせしといふ。

拔妻

拔妻い。法蘭西の加阿爾の法官の女あり。天性慈愛のおろる深くして。おのを所有の財寶のせとよりよて。親より譲りうけし資財をも。あませく世の不幸の者を恤むの資本小あてたり。かゆく教育と勞力と供せしる學校を設け。少年の女子小書を讀とならばせ。又耶蘓教の義理を説き

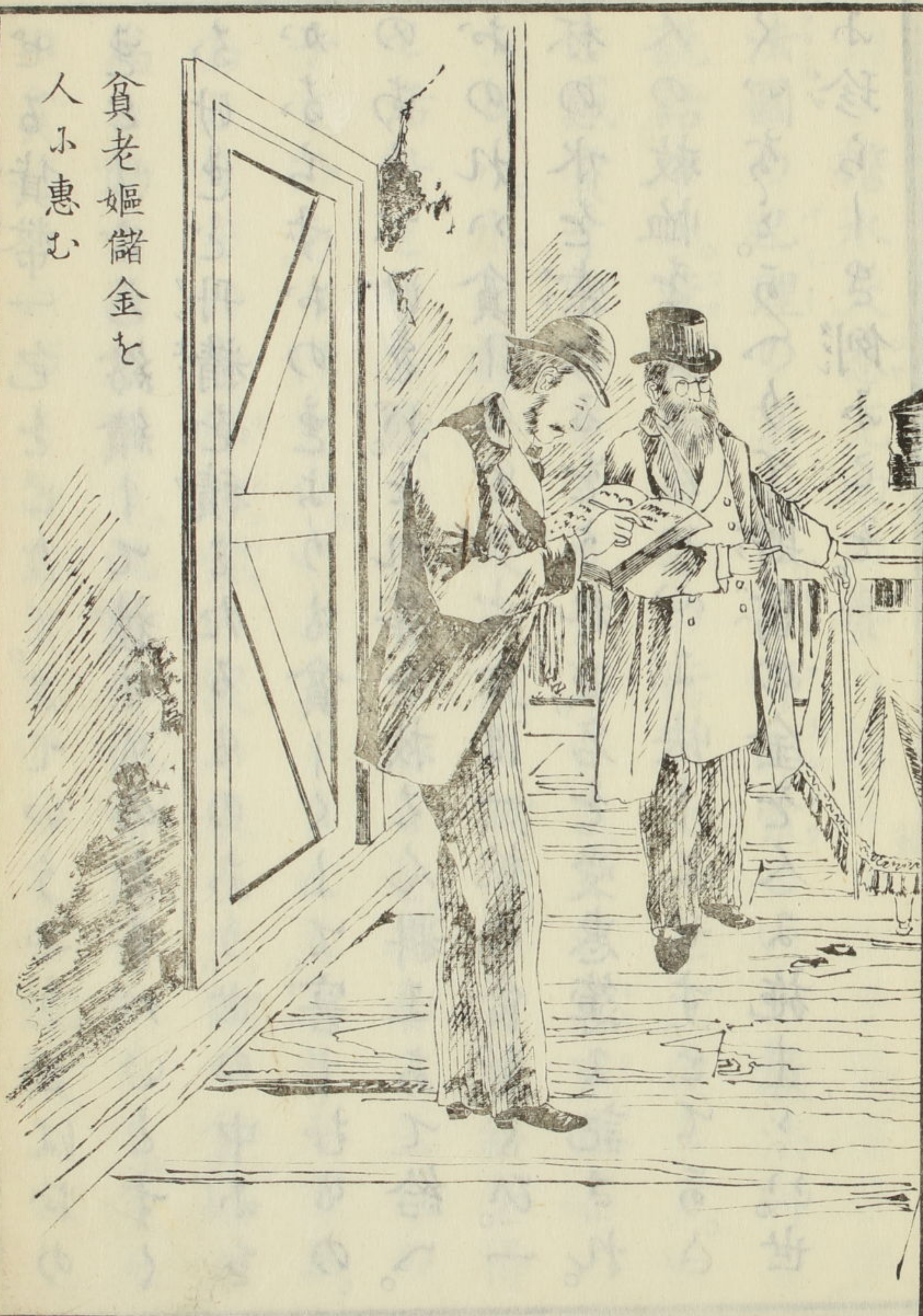
さうせなど。いと懇小教養しけり。されば拔婁と同志の女子三人までありて。力を添へ。其他小も世の慈善を好むもの。こを賛助するもおほかりけり。ある時人ありて。拔婁と謂りける。卿を喜て薄命の小兒を教育するどみづうら此任とおせば。世の慈善を好むるもの。卿を爲す多少の資力を遺るものもあるべけきと。こもこのざりあまひ。限りあきの薄命者を悉く救恤せられんおとおはるな。おをいふたまふお。と問ひける。お。拔婁の事もおげよ。おのきよ依頼

するものを悉く救ひ侍らんとぞ答へける。されば此他も。あるを貧困の不具者。まとい姪婦おどおを物をあたへて。おを救恤とこをを勞をり。あるを囚獄を訪ひて罪人を慰諭し。おれをいと従容死小就ありむるなど。常人の厭ふ事をいとはずして。おのき此務としけり。おをせしやどお一人の婦人の死罪を決まざるを。その刑期小臨むまでさおぐ小慰諭せしあバ。終る悟るどころあるお如く。拔婁も向ひていひらる。吾も三人の女子あり。若しこれを養育したまはら

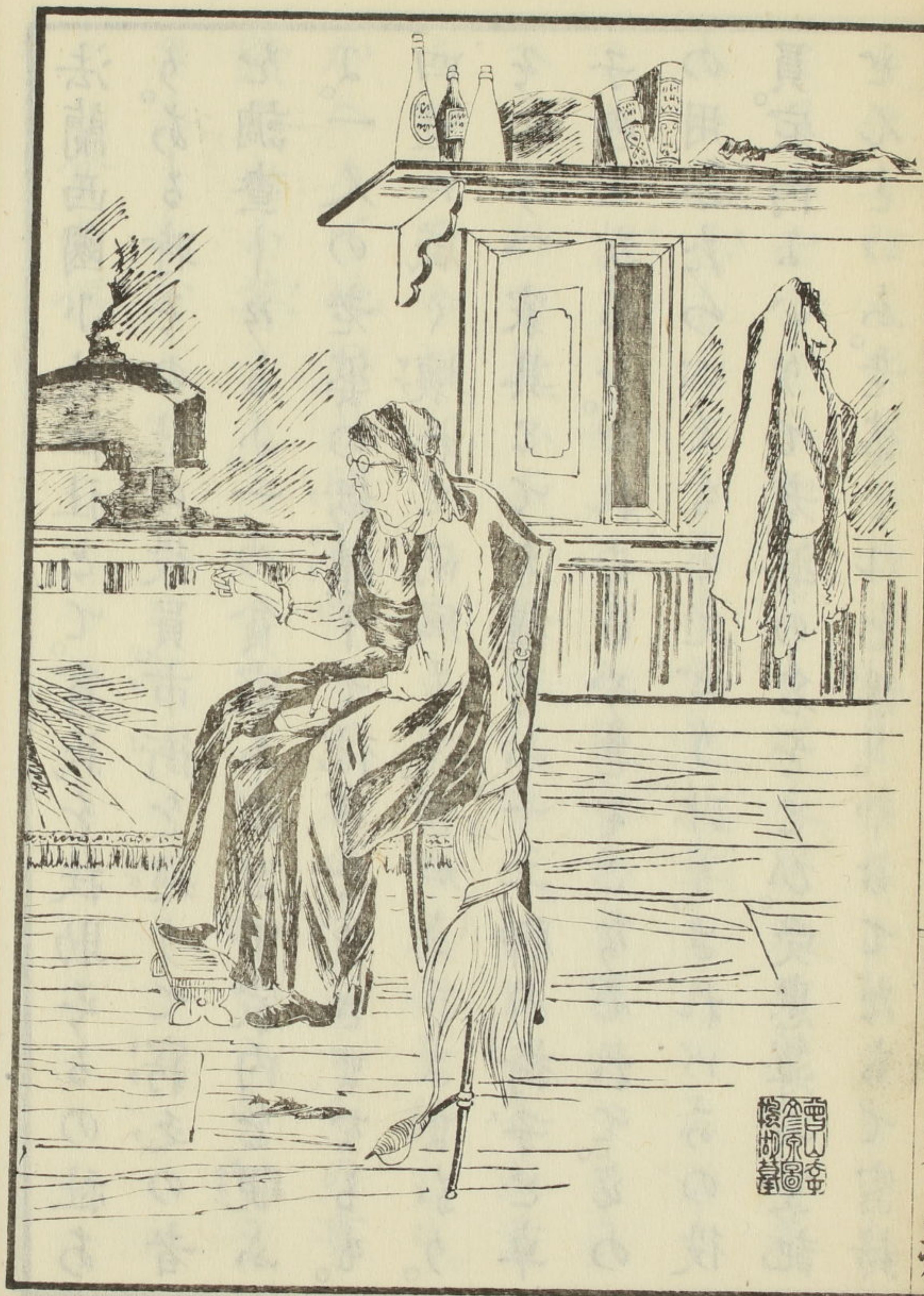
む。他よれもひ置事あり。願くもこをりあへた
 まはんやといふ。おやうと此人。罪人の兒子を養
 ふの厭忌まるごころあるを。拔婁をみるよく
 こまを諾ひ。この三人の女兒をわが家小つまの
 へり。これを教へおまを導びきて。法ひ小各正業
 よつあしめぬ。かくのおとき美事善行を積むも。
 かへりて他の見聞を憚りて。おのづからその事
 蹟の世小著する。おとある時を。却てこまをう
 きおとよおをへりしごぞ。困の不具者もひ
 貧老嫗の悲を憐れむ。ふも答へもひ

法蘭西國小救恤社として。貧民を扶助するの社あ
 り。ある時その社の役員。市街を巡りて窮乏の者
 を調査しりる小。一の貧家小ゆきて家内を覗ふ
 2。一人の老婆の紡績して他事なきさまなるも。
 四壁の咸く壊れて雨風も凌ぎがとささまあり。
 そのうへ家具とても。僅ら小一二脚の椅子と卓
 子のこなるを。これをもこやまをこなされて。その
 の用小たつべくもこえざりけり。さればその役
 員。家内よいりて老婆の名をとひ。受惠簿小登記
 せんといふ。老婆これをきく。やがてたちて密封

貧老嫗儲金を
人不恵む



〇十



西川
金
徳
印

せる貨幣一包をとりて。さていうやう。こはおの
 まじりぐる紡績して獲しものなきばいとすく
 かけまど丹精を積きたるものあり。世の中ふを
 かふらぶおのまよりも貪しくして。窘むもの
 のあるべけまば。それ等を救えん料よあて給へ。
 おのれい貪しといへど。なほ一椀の食をくひ。一
 杯の水を索むるをうれむ。名を受惠簿に記され。
 人の救恤を受らん心よ快くとせず。とてあこ
 くいなき。あへりて貯蓄の金を人よ施し。い。世
 小珍らしき例ふこそ。

擔水夫惹克面の妻

フランスの巴理の京よて。桑佛郎索といふ教法師の
 説話中。惹克面の妻の行状をりたりける。いと
 と感賞すべき事ども多ありき。その惹克面とい
 へるい。水を擔ひく人の家よ販り。その賃錢を得
 て活計とする賤しきものなるを。其妻よ三人の
 子さへありけまば。いと貪しきくらくなり。い。
 ある日その妻佛郎索の家よ來りて。他の貧婦の
 爲よ助力をこへり。此時佛郎索問ていとく。今と
 の貧婦をいづくふありていなる縁故よより。

彼が爲に救恤を索むるふりなど詳小問ひあき
 らぬける小。惹克面の妻をこれ小答へていそく。
 今爲に救恤を請ふ所の婦人を。その名を彼得兒
 といひく。さいつころ路のうらへ小ありて。初
 二日三日の間宿借らんことをうへり小。今
 もや十月ばありよもやなり侍らん。されど他
 ゆくべきところもあらば。食ふべきものもあら
 ねば。あきを逐ひもあつおりのびず。わき等夫婦
 いひさぶるよ。勞作してうるところの瓊少の賃
 錢を以て。兒子を鞠ひ。食の粗よしてその量を增

し。ともぐよわのちらへり。さてわき等住ま
 ところの家を。僅小二ツの室あるのとふて。家税
 の年よ凡百四十夫朗ハ圓二十を拂へども。爲に彼
 得兒小他日辨償ささべきの約をなさず。又これ
 等夫婦いひ小貧困に陥るも。勞動を甘んじて
 敢て他人を煩ひさず。といと屑く答ふるも。佛
 郎索ソウの志を好して。金若干をいたしてあ
 へられバ。惹克面の妻を涙を流して彼得兒が爲
 小こきを喜びたり。かくて佛郎索の彼得兒が爲
 よはありて。あきを貧院よいらしめき。そもく惹

克己の妻を。それ身の貧賤なるをも顧みで。他人の困乏を憫む。おとかくの如く。衣食住を共よて。十餘月の久しき小及べるも。始の志をわづらひ。恤と憫といひ。世人の龜鑑ともなすべきことならずや。ごどかふり聞かせし。

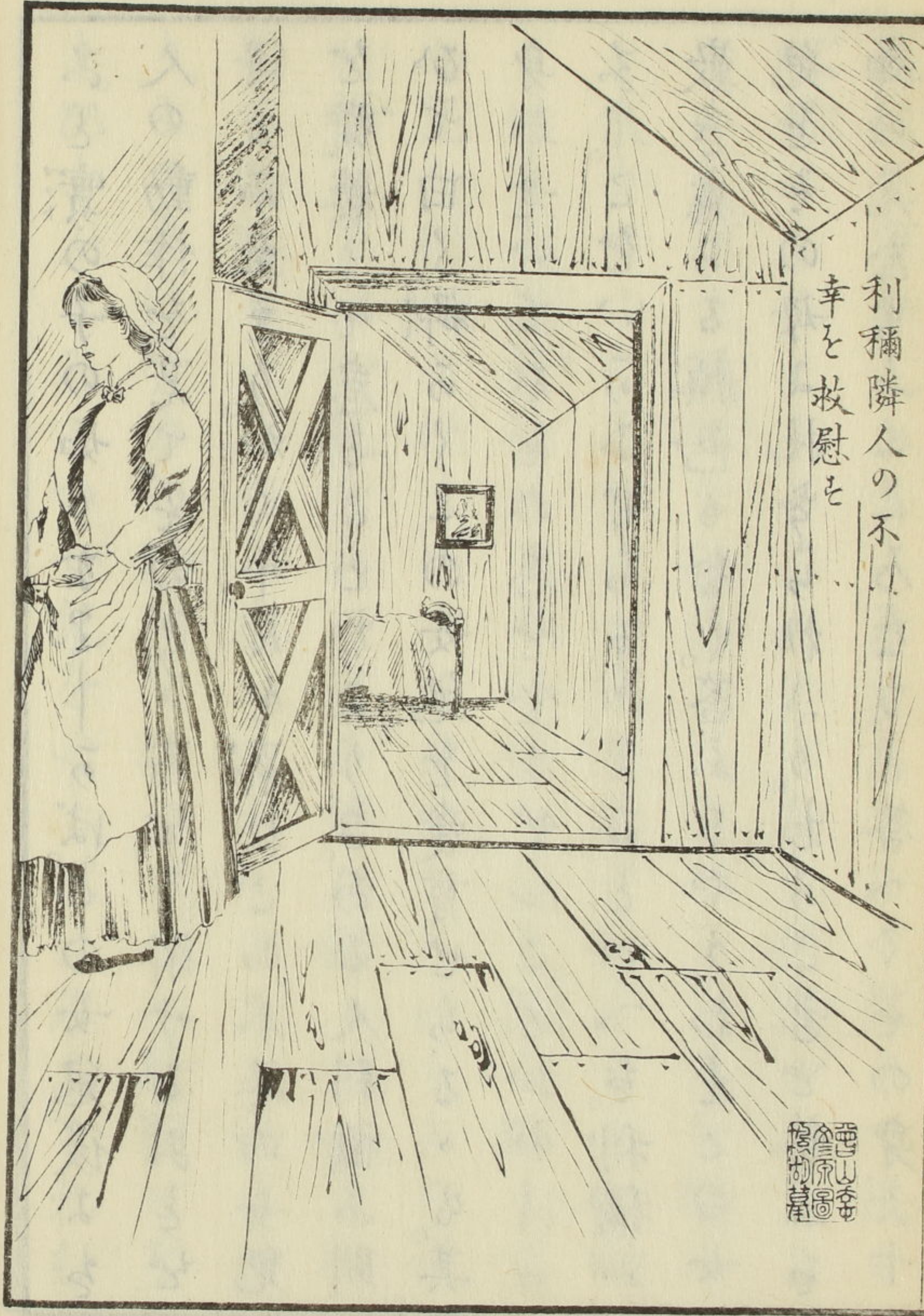
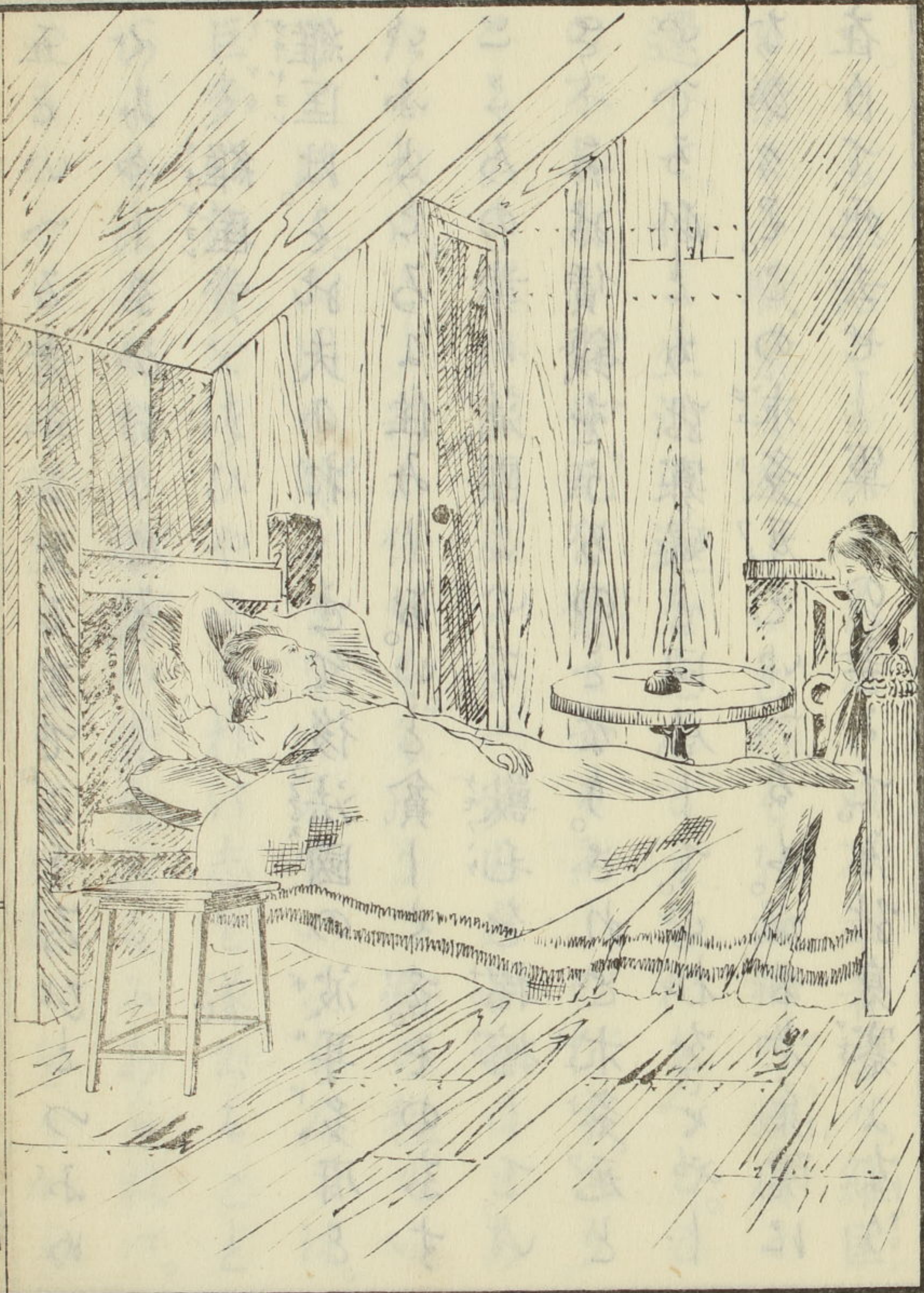
利稱

利稱は。巴理府の市街よて。いとちひさ紀家の二層の樓上よるをすまひし。勞力してその日をおくりけり。年久しくまづく。て。家具として一の臥牀と。一の椅子と。耶蕪の畫像の額一面とを存

せるのとなれど。常小善を爲す。おとを樂としけり。かゝるやど小毘利といひて。これと驛遞局の吏員の妻なりし。今を寡婦となりて。いと便なれをの。隣室小寓居しけり。それお生計とて。毎月僅よ三十夫朗圓許の世祿を有てるのよ。おと。いと。かすの。お暮しける。小。年老いて。不起の病よ。罹り。旦夕もは。おり。おたし。加之いと痛ましく。憫むべきは。この毘利よ。ひとり。の女ありける。お。聾。お。て。おの。い。お。こと。あ。こ。を。ね。お。これ。を。扶。助。する。もの。あ。ら。ざる。時。を。生活。する。こと。を。え。ず。故。よ

毘利此事のまゝあゝるをあやめて死よて後も
瞑目モクすることあゝるぬやとなり。利禰リネこれをこ
る小忍びず。毘利を説諭してそのまゝるを安ん
ど。代りてこの不幸の女兒を養育せんことを證
しける小。毘利始てこの苦惱を免ま。終スに臨リきて
女兒を利禰は托し。やぶて身まありけり。おの後
利禰リネは此女兒をわら室小伴ひ歸り。托のう所
用の卧牀をば。これ小與へるねん。ぶろ小いとば
り。その身は勞力の時間と増して。十八時間とな
し。ひとふるよこの女兒をいとほしきみあをれむ

おと實マコトの子の如くおまゝにば。この女兒。後よち
人の動作を見て。そのまゝるを了解するおとを
得る小至きり。かく年月を累ね。この不具の女兒
を愛養して怠ることなかりき。ある人利禰リネ小問
ひて曰く。卿キミはくこの女兒を愛育せらるゝも。其
身年老いてち。その志を全うせんことおがはら
まし。こをいひおせらるゝよといへむ。利禰リネは
歎き慮オモある顔色オモテもなく。答ふるやう。わまこの女
兒をその母よ托せられしり。わらまを養ふを
神の見たまふところなり。と答へる。その身六十



利稱隣人の不
幸を慰藉と

香山
金原
繪

五といへる老年に至るまで。うらむひとつおめ
ぐみやへあひけりどぞ。

維匡

維匡は。それ夫おねくきて後。法國の波耳多府と
いふところ。住みお。いと貪りて。そのおす
どころの業は。蒲團といへる。獣毛を摺擦して。い
さうおれ賃錢をうるのとなり。されど求多瓦と
いへるひとあり。寡婦と同居して。これをとや
あひり。この求多瓦といへる。ある老兵院に
在りて死去せし軍人の妻にて。それ身蹇となり

て。自ら生活をるおとあたをぬ不幸者なり。維匡
も素より職業を乏しけまは。それ故郷巴理府へ
還りて。他に生活の道をえんことをおもへど。こ
の不具なる求多瓦を棄て去るおのびず。さり
どくおき旅伴おもへ。一歩もおゆむことあ
たもねは。こゝろお任せを。それうへ路の程もい
とほく。山川の険しきをこえていへらん。は。
巨多の旅費を法ひやさぐれば志を遂ぐること
あつとほ。さりして貯蓄の資金あるおあらねは。
いへるともめん便なり。あくる困難のをりから

なまども。ひとたびおをひたちしことなれば爲
 志を更へず。悉く所有の家具を賣りはらひ。こ
 れをもちて。ひとつの小車をひきとめ。これお
 求多瓦を載せ。みづゝら牽きて旅立しけり。おく
 て山阪をこえ遠きとゆく程。或る食物をうる
 ことあはれ。飢ゝ困しむおとあるも。こをを
 のび。村里おいでく。食をの代を人よこひて。
 辱をうくるも。これお堪へ。日と累ねてはるおお
 る旅路。いいで。愈前て愈困難を増しけり。ある日
 暴^{ニハカ}黒雲蔽ひ雨風烈しくふり注ぎ。たちよるべ

き木陰だおあらねば。困苦たとへづたきやとな
 るも。これを凌ぎ。辛うとて安具廉といへる市街
 お達せるころ。雨をやうくやみたきど。爲小道路
 は深田のおとく。お此身を車と共に泥濘の中よ
 陥りて。進退うに谷まり。汗^{アヘ}いぬをひちたる滴
 と共に流る。息喘へぎて。こゑもえしてぬれどな
 き。路ゆく人もこせえと憫をうらぬいあらざ
 り。此時丟美拉といへる貴婦人の。道をのらこ
 の状をえて深く何をまこと。おをいごまりてそ
 の故をたづねとひ。委^{ツラ}おふそのよを聞て。こ

あつて金若干を何とへ。又ところの太守よこひ
て。旅費食物などを給せしめ。且護送の證書をさ
へ與へられし。竟に巴理府に到ることとをえ
て。おとひし如く為すべきの職業をえ。ポ多瓦と
共ふありて。いとゆたあふらしけり。このポ多
瓦は維匡ウキヤンよりの齡ヨハヒ既ふ長けたるも。維匡ウキヤンおひと
ねもおろなる。恤ウレをうけ。あつ波耳多府ポルトルより意を
決して巴理パリよ來り。そは目的を達したり。徳を
稱して。母とよび。常ふこれが為ふ將來の幸福を
祈りしとぞ。

馬理夫人
馬理ハ。金斯敦キングストン公耶物倫ヤウロウの長女なり。一千六百九
十年に生れし。幼より才智ありければ。その父
之を見。他の男兒と同く教師ふは々々學問を
しめし。これ進歩著るなり。最も古學クガクに卓絶
なり。父これを喜びて他の交際を斷さしめ。倍お
れに學問を勧めけし。當時にまふ及ぶそのな
し。あつて一千七百十二年に。義徳瓦蒙エドワードモントギューに嫁す。
共ふすして閑ヒラのふ世をおくりけり。若耳治ジョージ第二
世。英國の王位に即くふ及びて。夫の義徳瓦官途

小就きしるは。共よ倫敦ロンドンへ行て住まけるほど。その才能の人よ絶スグまじると。姿容シヨウの秀美ヨウビなると小て。世人の尊敬ソウケイする所となれり。さまは羅馬ローマの教皇アツチ亞底孫チン。其他の有名アツチなる著述家も之ノに往來キョウライして。懇切コンケツなる交カウを結ムスべり。一千七百十六年。夫ト義徳ギトク瓦ワ土爾格トルグの在留公使ザイリウキョウシに任マカせられて。赴任シュジンをシるは。相伴トモナひてこの地チに赴ツキき。をりく論説ロンセツ文章ブンチャウを新聞社シンブンシャなど小投書トウショせし。世の賞讃ショウサンを得て。當時トウジ婦女クノメの著者ショウシャよてハ。第一等ダイイチドウとぞ呼ヨまける。又活潑クワツツ剛ガウ膽タン小して勇氣ユウキありとまは。後世ゴセに最も大なる功

徳を遺ユキして。不幸フコクに陥オチるものを救サツひけり。その夏日ベル別谷グ拉ラよ在るころ。此國の慣習カンジュウよて。小兒コエに痘トウ瘡ガサを種ウゑて。其輕症ケイシヤウに感カぜしめ。劇症ゲクシヤウと避サくるの法ホウよて。所謂ソウイフ一種の種痘シュウトウ法ホウよて。其功イキニル著アツきとれは。馬理マリハ之ノを奇キし。心を用ヨゐて經驗ケンケンせし。果してその効キコを得たまは。信シんで疑ウタガわす。わが子の三歳サンサイなる男兒オウエよこれを施シたり。さて歸國キコクの後。隨行ズイコウをシ醫師イシとして。之を國中クニナカに廣ヒロめ志シをもんとせし。諸學士シュガクシの間マに議論ギロノおこして。政府セイフよても決キりあねられは。試シす死刑シヤウケイに決キりたる五人イニゴの囚

徒を擇びてこれに施し、十分の結果をえて、終之を國中に實施すること、をなせり。されど當時は頑迷固陋の世の中なれば、何事も改良進歩を忌むこと甚しく、馬理の爲は世人の嫌悪する所となりて、困難を被りしことひとかちらむ。凡庸の醫師を兵器をとりて、頑迷を訴へ、固陋の僧徒に講堂を群集して、粗暴を極むるなど、その騷擾ひとかちならざりき。されど馬理はこれ等の障礙に依りて志を挫かず、堅忍不拔の勇膽を張りて、終に數多の賛成をえ、その志を果

たむことをえり。其間馬理の常小己の少女を携へて種痘者の家に至り、之を監督し、その少女を病者と同牀に置き、その傳染せざるを證明し、けり。抑痘瘡の邪毒を恐ふするの時、方りて、人命を損ひ、容色を變ず。その慘狀人をして戦慄せしむるに至るを、馬理は此功績に因りて、この禍害を免るゝおとをえしめり。洵に非常の大功績とぞいふべき。蓋し馬理は此擧は、彼著名なる醫師日内爾が牛痘種接の方を發明せしより、六十年以前の事なりといふ。

以撒伯拉額拉罕

以撒伯拉額拉罕ハ、蘇格蘭の人にて。一千七百四十二年小生じり。幼時厚く父母の教育を受け。生長して後、襄額拉罕といへる醫師に嫁して。四人の子を生じたり。其後夫に從ひて米國の加拿他にゆき。駐まるおと四年よてあつを去り。安地卦に至りし。あつを去り。夫を亡ひり。去て郷里に歸り。父と同居して。此地の貴女の教育に從事して生計を營之。老父と兒子とを養ひり。あつて一千七百八十九年よ。復び米國よゆき。新約

克小止まりて女學校を開きし。その教則の宜きより。僅のやど小その盛大を致せり。この他以撒伯拉額功業いと廣くして。これを約めいへむ。寡婦會社。孤兒院。勸業會。孤兒學校等。諸の會社の發起創立者よりして。これら此爲よを精神を注ぎ金錢を費することをして。その資金乏しくして。教師を聘するおとあつは奴ときい。その身みづらら教授に從事して。いさつあも厭ふことなく。世の公益を謀り。大功をたてし。おといと多く。又よく人を獎勵し。仁惠美舉よ力を盡さし。

むるの才力も富みて。類まくなはれ婦女なりけり。
 かく此如く常小真神を尊敬して。終身世の公益
 を謀りしむ。若この才力を轉じて。文學の事も用
 めしめば。亦非常の高名を得んおと疑ひなし。そ
 ろ平生の書信をこる小。文格極めて正しく。其詩
 も亦胸中餘裕ありて温雅なるおと。世人の及ぶ
 所おらば。されば以撒伯拉の。自ら好て世の公益
 義務も力を悉くこるおと。文學詩作もい一こ
 ころを用ゐる小違あらざりき。一千八百十四年
 の七月も生前の業を卒へ。こゝろ安くぞ身まか

りける。後その兒子等もよく母も倣ひて。仁惠
 を施すおとを好めりといふ。

安那

安那同多勒門の。巴理府の名高き狀師の子にて。
 一千七百四十五年も生をふり。その母も亦聰明
 ありて婦徳を備へたるおと。その教育も
 よりて大に安那の徳性を發育せしむ。安那の
 心とはやく父母の家を出で。當時收税長の職小
 あし。一孝熱勤といふおと。お嫁しけり。事繁き家
 みてその管理する所もいと廣く。交際も多端な

れど。安那アンナをふれを厭イヤふことなく。その兒子の教
育イクも盡力せり。さまじわぶ子を親愛して。これ
を教養するの餘徳を。他人の兒子も及びけり。
安那アンナの父を育兒院の總理をも兼ねをば。常トコもそ
の謂ふ所を聞くに。この育兒院と云へるも甚不
完全のそのふて。數多の小兒を一室イツシツも群集せし
め。適當の食料を給するおとあさねば。よから
ぬ空氣を呼吸して。爲る病をえ。死ぬるものいと
多き也。實デ又痛イタしきおとなりと謂イハるをきいて。い
とあそれなるおとふねをひ。いあおもしてこの

不幸のこのを救せんとおとへど。巨多キョタの資金を
要するおとゆる。一時もその法を設くるおとあ
たもぢ。されどねをひ止むべきおとならねば。こ
らろを碎クヰき思慮を廻らして救恤の方法をおも
ひえ。之をある貴女キコノメもかきしふ。此貴女を敬神
慈愛の心深く。富貴を兼有カネタモてる人なりけむ。忽
ち安那アンナの美擧と賛成して。力を悉ツクさんことを諾
したり。これより巴理府の富有なる貴婦人等。お
ほあたを之に應じて。諸事速ハヤに小整頓セイトンせしむ。あ
此時始めて婦人惠施會と云へるものを創設し。

衆力を一よして。不幸の兒子を救恤するの方法
 を立つる小至まり。かくて法國の王路易十六世。
 及び其后馬利安兌業首として金幣を寄贈を
 る。一千七百八十八年より。この會社の事務を
 施行して。その成功をみる小至まるを。惜むべき
 也。その翌年革命の戦争おこりて。一時この會社
 も廢滅せり。この變よあまりて。安那夫妻とも小
 非常の艱難に遭ひ。頗る勇壯活潑のほくらさを
 何らばしける小。夫の終よ死刑に行もれぬ。お
 て後を。一家の事よりその兒子の養育まで。一ら

安那の一人の身ふあつまりけるも。原より才智
 絶を。婦女なきは。祖先の財産を失はずしてよ
 く之を保有し。數多の兒子を育て。その愛敬を享
 けて。一千八百十三年に病に罹りて身まのりぬ。
 されど安那が生前小企圖せし所の救恤社に。身
 と共小派ぶるおとなく。後よ拿破侖此法を用ひ
 て再興し。馬利路易撒を長となせり。又布爾
 奔家の回復する小及びて。大小皇女の賛成を
 えて。會社の資本を増加し。こゝに始て安那が企
 圖せし如く。完全無缺の一大會社となせり。

少女馬利

馬利といへる少女を。法國のあるところの葡萄園の園丁の女なり。その年やうく十五歳むありのころ。郷社の祭日の近づきぬまに。其日着用すべき衣裳を買ひ求めんとおもひて。平生より勞力して貯へ置りる金を懐ふ。いと手輕小いで立て。あゝろよろこびうちいそだつ。兀素爾の街を過ぎ。ひとりの老夫の路傍小蹲て泣き叫び。いと困弊を極め。狀なるをえとめ。立とまりて。そはゆゑよゝを聆き。心中深くこれを憫み。と

も小泣きて。わづ身の衣を購ひ身を飾るの念を断ち。その金を出して老夫と與へ。竊におもひやう。この善行をなしたるの美しき衣着たらむは。勝きりとおもひ。よろこびて家小あへり。とぞ。

撒拉馬丁

撒拉馬丁。英國のいと貧しき人の女にて。をさかき時父母を喪ひ。祖母の手より鞠きて成長せり。祖母を閑斯多といふところ小住居して。裁縫職の助手となり。一日より貳拾五錢餘の賃錢を得て。

やうくその日を送る不となれば。其貧苦おもひ
 やるべし。かくて千八百十九年の事なりける。あ
 牙爾謀斯といふところの獄舎に。一人の婦人囚
 となりていぢられし。そをおのき此小兒を打
 擲し。及び欺騙拐帶などの犯罪に因るおととど
 聞えし。此時撒拉馬丁を裁縫場の職工して。年少
 さなどなりし。この事を傳へ聞て。いと痛まし
 さふとおおもひ。いとおもしてこれを正道に導
 き。良心よかへらしめんと一途におとをひおこし。
 數獄吏に請ひて。遂に獄中小いるおとを許され。

る此婦にあひて懇に説諭を加へし。あは。ほとな
 く前非を悔いて過を改め。ひよすら撒拉馬丁を
 教へ小隨ひし。これを始してその職業の暇
 を以て。獄舎にゆき。多くの罪人を教へ導き。その
 苦患を寛うする事。一ら力を用ひたり。故に撒
 拉馬丁は罪人の爲小を。實に導師にして。且教師
 を兼ねたり。この時いな。罪人の法を説き。業を
 授くる等の設あらざれば。撒拉馬丁一己の力を
 以て。あるを書をよませ。文字を習ませ。裁縫その
 他の工業を授けて倦むおとなく。自の神のおの

きをして。ちさしめ給ふ職分とおもへり。されば
 却てその本職とするかとおこたりぢちよて。
 活計よもさばる事あまど。意を決して志を更め
 ず。まをく力と竭して罪人の教化に從事しけり。
 かくするおと前後二十年の間。一日の如く法と
 め勵しあは。おまふ化をられて頑陋無頼の徒
 の。遂に良民とあるをその數をしらす。されど
 此時まで一人の力を添ふるものもなく。これを
 賞する人とてもあらざりしを。いやもておそこ
 の地方官お聞え。その功勞を表して。年金貳十封

度

元我百

を與へられし。初に固辭して受ざり

しを。種々説き志めし。遂に給與せらまけり。後

二年むかりありて病に罹り身おのまし。その

病牀にありても。神徳を頌するの詩を作りて。真

實の精神をあらはし。讀者をして覺えお歎聲を

發せしめたり。されど撒拉馬丁が一生の實行を

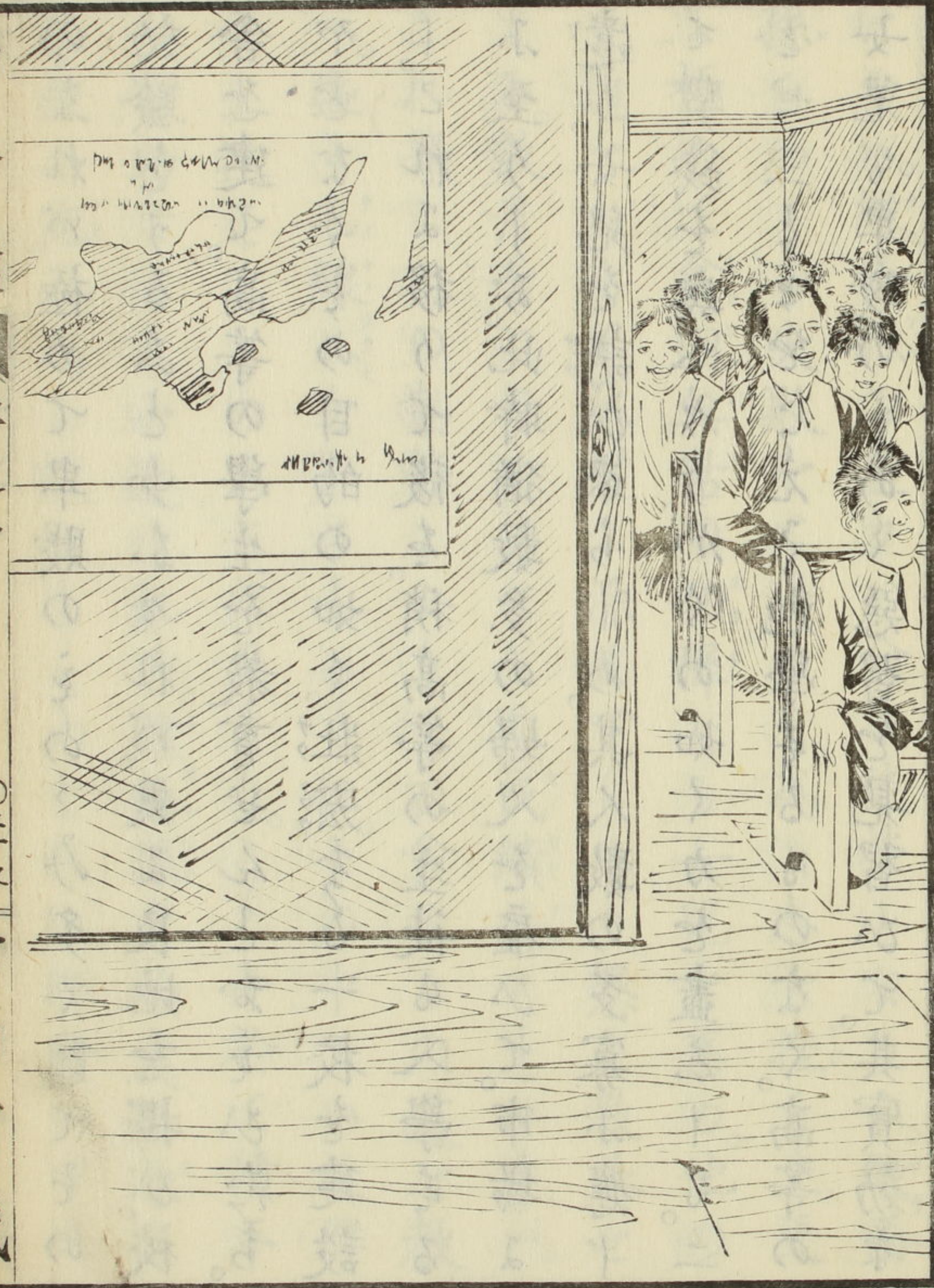
この詩に倍して仁智の徳をあらはせり。

維爾孫夫人

維爾孫は。英國の人よて。仁慈の心深く。勇氣をさ
 へ兼ねたる婦人なりければ。非常の艱苦に堪へ

て蠢愚無道の地方は女子教育の道を開き。現今
 に至り東印度もて。數多の育兒院。及女子教育諸
 會社の創立者とぞ仰ぐまゝなる。抑今と距る三四
 十年前もありて。東印度の教育は特り男子は止
 まりて。女子は及むず。全く之を度外は置き。只僅
 かに割烹の法を見慣らせ。自ら矇昧無智も安ん
 だ。殆男子の奴隸の如く。政府も亦措て問もざり
 けまば。此時も當りて之も教育を施すこと。實も
 かさりと云ふべし。ざるを一千八百二十一年の
 ころ。維爾孫初て此地に至り。この状をみて深く

歎き。いゝのであまも教育を施こしてこの陋習を
 破り。後來男子の補助者たるの實をあらはさ
 めんとおもひ。先づづゝら孟加拉語を學びて稍
 之も通せしむ。それより人民の群集するところ
 へも移住して。試も女子の學生を募り。その出席
 するをその金を金錢を與へる之を獎勵せしむ
 べし。生徒漸く増加しけまば。假りも一小校を設け
 て一ら教育も力を竭しけり。之を初として處々
 の市街も教場を増設し。怠らず巡回して教授せ
 しむ。これ等の生徒の賞金を與へる募りしむ



維爾孫印度の
女子と教ふ

西園寺
正三郎
繪

婦
科
金
卷
三

〇二十九

婦
科
金
卷
三

婦
科
金
卷
三

婦
科
金
卷
三

のなれば。極めて卑賤のものゝみ多く。隨てその
 効驗をうるおと少かれれば。更は良地を擇び。校
 舎を建て。高等の學生を教育せんとおとひたち。
 やどなくその目的の如く。壯宏なる一校を建設
 し。これより移りて後ち。稍高等の生徒も入學する
 小至りし。此時猶數多の婦人を雇ひて。市場より
 遣り。女兒を誘ひ來らしめ。其人數の多寡小應じ
 て賃錢を與へたり。かくの如く力を盡さしむ。二
 とせ三とををくらえ。勉學するものなく。高等の
 女兒も卑賤のものゝ惡習を見習ひて。其實効な

けきい。維爾孫が盡力の全く徒勞となりぬ。維爾
 孫をかゝる失敗をとりしむ。為は志を挫かず。更
 は極めて貧困無怙の幼穉なる女兒を集め。他の
 交通をたちて惡習は染まざらしめ。懇に教養せ
 しむ。數月をいぞしてその成績著しきけきい。
 これ等より已の勤勞よりて衣食するの道を教
 へ。盛は毛線工をおさしめしむ。その中より拔群
 より上達するものあるに至り。さうしむ於て積年
 の實功をうる小近けれど。維爾孫が居處を原と
 學校小充ん為し設けしものなれば。都會の中央

ありて。惡習鎖絶の目的も適ひがたし。され
ば更小閑静の地も占居せんおとを欲されど。當
時その資も乏しく。有志者の寄附金もあらざれ
ば。自ら奔走して資本をあつめ。加爾各搭府を距
るおと十四里の處も一の静地を購ひ。家屋を建
て高壁を繞らしておと小移り。その女兒を携へ
て倍之を誘導し。身自ら女兒等の模範となりて
之を薰陶しけり。さればその教ふる所を單に讀
書筆算裁縫も止まらず。その心術を端正ならし
めん爲し。禮拜堂を築きて宣教師を招き。その説

教を聽聞せしむるなど心を盡し。然してこの教
育を受くるものい。基督教を奉ずる土人と婚姻
するもの。又も他の育兒院も從事するもの非をば。
退院するおとと許さず。かくて數年の後も於て。
此地も女子の教育盛なるおと至るもの。全く維爾
孫の偉功なり。
特多里蒙
一千八百廿五年の初おと。惡疫法國の桑破斯爾
古耳と云村落も蔓延して。最慘狀を極めたり。中
小はいていとあもきなるもの。惹克究士連といへ

るい。家族十一人ありて貧しきものなるを。僅六
 日間も惹克シヤク空士連クウシレンの祖母と二人の孫と。惡疫の
 爲ふ身まかりぬるを。後一月あまりのやどふ。又
 その母と二人の子と共に身まかりぬ。加之戸主
 の空士連クウシレンと四人の子と。残るも皆傳染して病
 牀コシダに困臥クワンせり。かくの如く劇烈ゲキレツなるおとるべき
 惡疫アクイなきは。他人をいふも及ぶず。親族朋友比隣
 の者も。おそれるこの家も近づくものなきは。
 ろ此父子五人を扶助を請ふの望カミを断ち。空しく
 死亡を待つものなりき。此時塞列斯セイレス丁特多里蒙チヤトトリモン

といへる婦人。鄰郷ふありてこのよき傳へき。
 深くことを懼み。直に破斯爾ハクスル古耳コウの里ムラに如き。里
 正フジのよきふ至りて。彼の五人の病者を看護せん
 ことを請へり。里正の婦人の志の篤きふ感しけ
 るも。いとあやうき事なきは。委曲ウヅクよその實を謂カク
 りけるふ。婦人曰く。わき固より身を危険の境キマに
 陥オシるを知らざるふあらねども。さりとして眼の
 前マタに彼の五人を棄て顧みざることをあさまず。お
 やよそ人として真神マカミに誓チカひ。人の危急を救えん
 と欲するもの。一命をば惜むべきふあらずとて。

遂に宅士連父子の困卧せしむるときたおき家よ
いたり。一身以て五人の病者を看護しけり。この
後四子の内一人も遂に斃せしむ。その餘に此婦
人のあらしき看護は因りて。萬死をいで、一生を
うることをえぬ。特多里蒙婦人のかくのごとに
陰徳を積むおといと多あるべきも。おとどく
世に聞えて。惟らまをせしむるものい。直接よその恵
を受たりしとのと。天上の神とのこならんあり。

瑣姫

一千八百三十五年の冬。法國よりてい寒さ例より

も酷く。為に困苦するものいと多ありけり。偶
麻多連瑣姫といへる婦人。野邊のいで、歸るさ。
ふとえまをばいと壊きたる一ツ家の。さかづら鹿
猿のふしどりの如くあまをてて。中に人あるべく
もねもまをぬを。かまのふうめく聲のするやう
なまを。密に戸のやま間より覗ひみるふ。一人の
病婦ありて。息もあえぐなるが。をましく呻吟する
なりたり。瑣姫みてあまをれよ覚え。内よ入りて病
婦の傍を離れず看護せしむどふ。やうく夜よ
りて雪いふまじり。戸牖のやま間よりい寒風

ふきいりて。さむさたへぐさけまば。木片など拾ひ集めてこれを焚き。さむさを禦ふんとせし。ほし乾らしたる薪ならねば。ゆりて燃えおた。烟を戸内よ充ちていといふせ。戸外よい。餓たる狼の。人あるおとせし。内よいらんとするさまなき。その危きおと譬が。この時瑣姫のとならば。いふおもして。身をのぐるべきを。瑣姫の病婦を置いて餓狼の餌となす。おのびず。百方防禦よ力を盡し。大聲をあがて衆くの人のあるお如き形状をなし。竟よ夜あくるま

で狼をして家内よいらしめざりき。夜あけて後狼をふげ失せぬ。あつて志むしありて。病婦の曼色兒の終よ息たえぬ。是よより瑣姫を。たちさらんとおもへど。この死人を。狼などの腹を饜らむるを。近村の農家を尋ねてこれを托しける。よく諾ひし。やがて跪て神の真助を謝して。さむしとど。

聚侃

契努聚侃も。法國の幹加耳と云ふ所の生ふて。賤

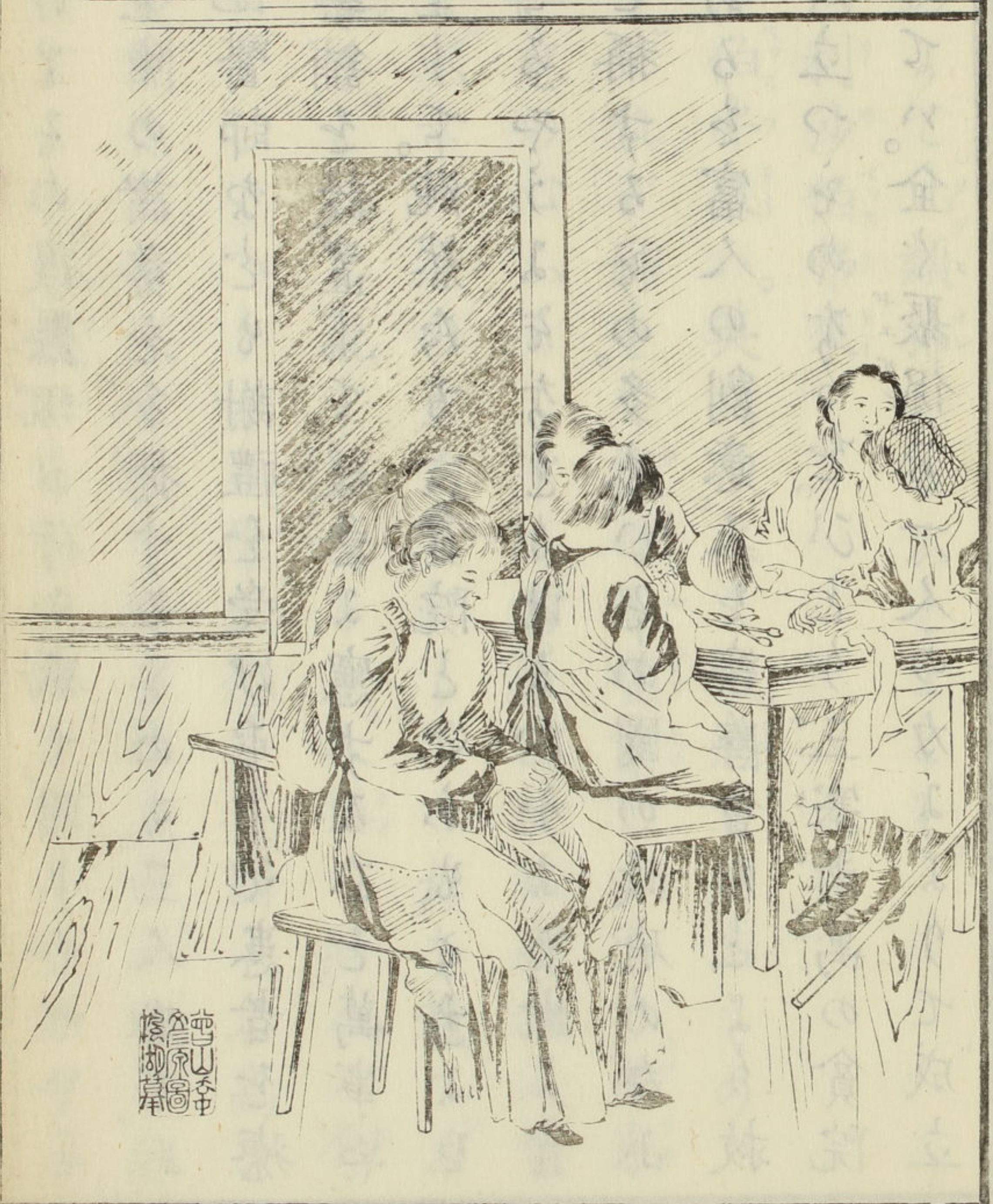
一きこの女なりければいとわらぬ頃より三
 塞爾萬といふ所ありて人の家より下婢となり
 仕へたり。かくておやくの家より仕ふるほど。最
 後より家風いと厳おふく。よに學校とも稱すべき
 ほどに家より仕へり。年月を経る不どふ。その
 主の婦人病おわすらひく身おかりたり。此時聚
 侃の始て意を決して。この主婦より代り。務めて善
 行をなささんおとをねもひたちけり。かゝる不ど
 小盲よていと貧し老婦の常より依頼せし婦人
 の保護人を喪ひくよるべなく。をまし冬のこと

ろふさへあまはき。うゑくどえく便なれ状な
 るをあまれ。我家よりはき。あへりて恤みあまを
 と。衣食を何まへてその困苦を免せしめ。この
 て又一人の寡婦を増して。三人同居するふいた
 まり。この寡婦も曾てある家よりつらへり。主
 家不幸の秋より際して。給料をもうけ。主
 の為より勞力し。この貯蓄をも抛ちて顧み。遂に
 嫁せ。寡居せる。病の為より不具となり。生
 業を失ひ。これを始りて他の不幸なる者。
 とな聚侃が仁恤の行ひあるをき。はめ。その

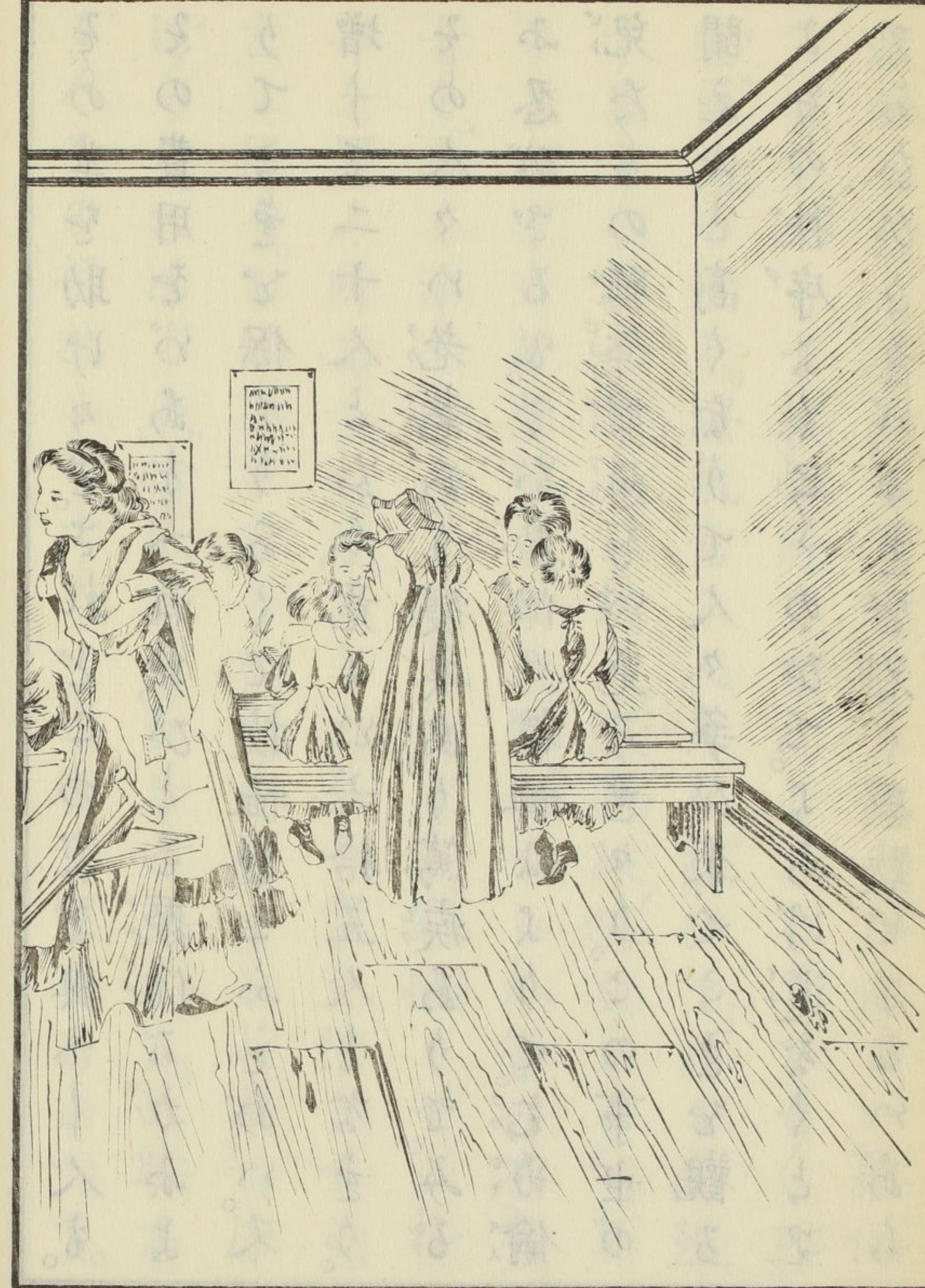
救恤を請ふもの。日よ増加しけむ。世よい聚侃
の家を。やぶて救恤所となんよむ。そむく三
塞爾萬の地を。海氣常小人身を襲ひて。爲よ病歿
するもの數多なる。故よ。鰥寡孤獨のよるべな
きものいとわやかりけむ。聚侃いこれ等の不幸
者を。悉くすくはんとおむくども。家隘くてこれ
等を置く所あらねむ。ある大なる家を借りてこ
きよ移り。あは不幸者とどむぐ居けるよ。僅一月
ばのよのほどよ。拾貳人の多きよ至む。此時あ
る人その行ひよめず。いと廣き家をあさへて。

その業を助け々。されどこの家を與へ一人も。
その費用をばあさへねむ。ひと聚侃の力よよ
りてこそを保てり。あくて救恤をこそふそのい。又
増して二十人とあり。竟よい六拾五人となむり。
その人々の老耄あり。癆疾あり。篤疾ありて。みる
お忍びざるも。よ聚侃が救恤よよりて。乞巧偷
兒たるの耻辱罪惡をば免むをり。この事世の
聞えいと高くなりて。人々争ひ來てこそを觀る
よ。その秩序よくとのひて。よろけ遺なくとも
あのおひくむ。こそをえく感歎せざるいあら

聚侃貧
院を興
して不
幸の者
を救恤
を



曹山金
繪



ざりけり。その後聚侃ガクの行ユに感カて。同トく力をあ
 せ。室中の諸務を分ク擔シするものも。三人まであ
 り。其他醫師なども謝禮を受けずして患者を療
 ず。又藥舗を設置して。緩急クワンキツに應ずるふど。萬事や
 り完全して。純然たる一貧院といふも。うきよを
 過ぎざるやうよどなきりける。おおよそ世よ貧
 院など稱するもの。多くいその國の政府の力小
 より。あるを富人の創意。又を樂善會などより救
 恤して立つ。そのなるを。ひとり三塞爾萬の貧院
 小至りてい。全く聚侃ガクの一人の力よよりて成立

一このよて。比類ヒレイ稀ヒなるおとよこと。

以利沙伯弗來

以利沙伯弗來イリスアバフライ。英國の人よて。潤ツルといふもの
 女なり。これが姉をば撒母耳サムエル噶業ガフネといへり。弗來
 天性仁慈の心ふあくして。常よ囚徒奴隸犯人乞
 丐など。不幸のものをあをれらて。これを教へ。お
 世を導ミチき。これを親オヤとあぢ。人稱ヨメて婦人の厚
 瓦德ワッデとなむいへりける。厚瓦德ワッデの英國よ名高き
 仁慈の聞えある人なり。これをなり。弗來フライ幼コなか
 り。おどより。容儀ヨウギいとつくりくみやびやこの

小言語もその一づゝの爽なりしかむ。人ごと
 2 愛せられしも。後々のやうに仁慈をもちて。人
 3 推尊をせらるんとむ。誰ひとりこゝろづくもの
 4 いあらざりけり。さるを弗來いすで。小此時より
 5 志をたて。神聖の道を尊信し。年の長ずる小志
 6 たゞひく仁慈を施し。篤行を積みてその名譽を
 7 得しなり。弗來い常は兩眼をどぢてこゝろを鎮
 8 め。まづあら傷むおとあらが如くまて。徐ろよ人
 9 をさと導きしかば。徒場の罪人無頼のものも。
 10 過を改めて善良に歸るとのいと多し。中よつき

て犯人を遇ふこと小長トけり。ある時監守の人
 弗來い謂ひけるを。卿を牢獄の中よいらば。衣
 服金錢いふまでもなく。一命をも奪はるべし。
 とおどし侮りしおど。弗來いさ。かもおとる。
 いろなく。獄中よいら。宛も兇徒等鬭争して
 あまければ。隙を覗ひくその間よいら。いと一づ
 ゝ小教へ諭し。お。たちまちに和解して。おの答
 鉄を加ふるよりも速なりけり。お。く。て弗來い
 彼等をして。おの。お。周囲よおき。種々の談話をな
 して良心を感發せしめ。握手して相親むの誠を

あらはし。などなく外のかさ小出来きり。さう小
おいて獄吏監守等大におどろき。そのあたり但
以利の獅洞よりいづるをえし。如しとぞあざ
みあへりける。こち但以利神通をえらる人なり
けまば。獅洞に投ぜられし。と。恙なくして。さ
まといふもの。ぶし。そのあまばなり。弗來いかく
の如く傑をうるものなりけまば。兇徒犯人もこ
まをえまば。獄丁監守もましておそまけり。又
自ら信じる道を求めん。為し。法蘭西。荷蘭。德逸。
噠馬。白耳。義普。魯社等の國々を周遊し。その幼き

時ち。故郷又ち他郷ふても。屢不慮の災難に遭ひ
し。あども。よく忍耐して功德を積む。善行を累ね
て。遂にその本國をいふ。及むす。外國の人まで
もあまねく法をへて。これを賞讃する。小至きり。

額黎坦林

額黎坦林。英國の諾東北蘭といふところの燈明臺
の監守人坦林が女なり。千八百三十八年の九月
のころ。ホアハルスハヤといふ蒸汽船。諾東北蘭
の近海にて颶風にあひし。船の製も堅牢。さら
で器械も整備。ざりけまば。浪風もゆるきて遂に

大發爾加の巖山イハヤマふきつけられ船とおろり
砕けそこなされていふおともせむすべなくい
まや船中の人々もおとぐく溺オボせ死ぬべきのあ
りさまなりきこの大發爾加オホハルカの諾東北ノクノヘ蘭ランのいと
ちかきところなまは額黎アキラの父胆林タムリンもるかよこ
の形状カタガタを見いふおもしておの難船の人々を救
ひ助けんとおまひ所持の小艇コボネをこぎいでんと
すれど暴風浪を捲マキて大山のくづるお如くな
ればいふいせまーとたゆたふをりしも額黎アキラ
を僅わずかの二十二歳むらおふおけるお父を勧め

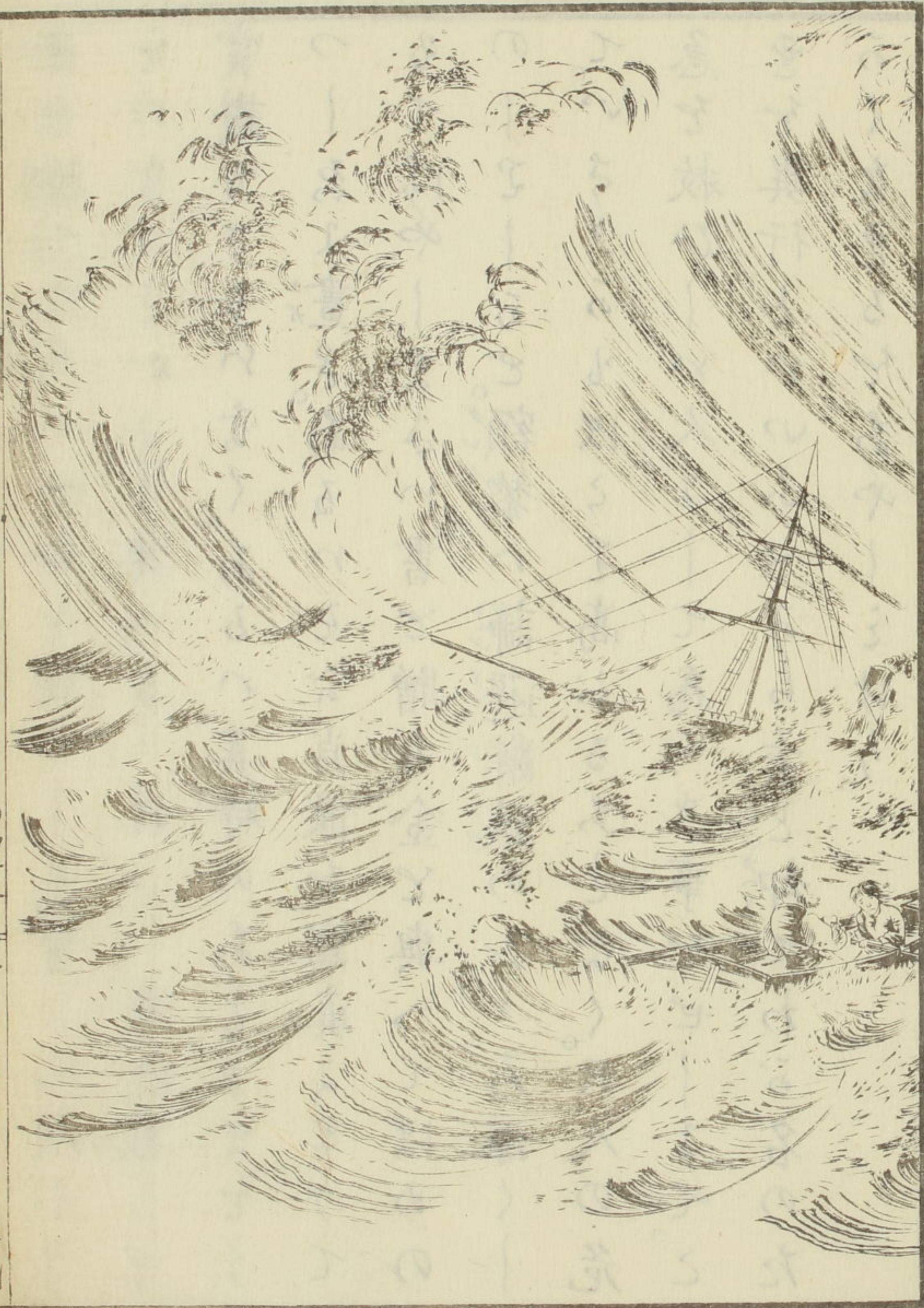
て共とも小艇おとり乗り自ら權カキをとりて父よ力
を添へ浪風を犯し危険をしのぎて遂ついに難船の
ところよ達し船客の中九人までを小艇お助け
のせととの岸小漕ソウぎかへりしおかどなく難船
を悉く沈シヅまはせて残りし人々の中よハ一人も
助たすめる者をあらざりけりそおの時額黎アキラの勇
敢カン活潑カツペツの氣象ありて父お心をさげまし力を添
ふるおあらすば胆林タムリンも意を決するおとあさは
おして船中のもの悉く魚腹イサハに葬ハカらるべありし
を額黎アキラの勇ありて仁慈ニンジふらきおろよりわら

大發爾加の巖山 卷之三 四十一

額黎嶮を
犯して漂
舟を濟ふ



會山亭
繪圖
後湖



身を捨て九人の性命を助たりしを。實よ比類なき
そのなりとかとり傳へき。法々へ。遠近舉りて
賞讃をざるいなく。あるは其時のあまさまをう
つしゑよ畫き。あるはそぶ肖像を寫真よとりて
もてはやく。まふい書と贈り。金と與へてはめの
のしりしあど。額黎い謙遜辭讓のあゝる深くし
て。いさゝるもほろ里高ぶるおとなく。只人の危
急を救ひし人よして爲べき事をせしめて。こ
きを異行といひふべからずと。却てわが名のだ
らくなきるをあやしとけり。

婦女鑑卷三終

如
女
鏡
卷之三
宮内
省
藏

淡墨の文字が透り出ているように見えます。これは裏紙の文字が透ってきたか、あるいは別の層の文字が透ってきた可能性があります。文字は縦書きで、右から左へ読まれるべきです。内容は判別が難しいですが、一般的な漢文の形式に似ています。

